

## 1 研究主題

### 自ら学ぶ力の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり～

#### 〈主題設定の理由〉

自ら学ぶ力とは、基礎的な知識・技能を身に付け、それをもとに学びを広げていく力である。学びを広げるためには、よりよい生活の実現に向けて、日常の生活の中で自らが課題を見つけ、これまでの知識や経験と新たに収集した情報をもとに考え、追究できるようにすることが大切である。本校では昨年度、国語科、道徳科、外国語活動・外国語科の研究を進め、それぞれの授業スタンダードが定着してきた。

そこで、今年度は、研究主題を「自ら学ぶ力の育成」、副題を『「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり』として、研究教科を国語科に絞り、新学習指導要領に基づいた授業づくりについて研究を進めていく。具体的には、「単元で身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想」、「最適な言語活動の設定」の2つを通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての研究を進めていく。なお、研究授業の際には、講師を招聘して研修することとしているが、招聘ができない場合は、教員の指導力向上につながる観点から、本校の教員が講師を務めることも取り入れる。さらに、これまで実施してきた学びを明日からの実践に取り入れるためのレポートも続けていき、それを再び教職員に提示し、次の研究授業や日々の実践に生かすようにすることにより、研究授業と日々の授業や次の研究授業をつなぐ工夫をしていきたい。

研究内容は、

「身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫」

「最適な言語活動の設定」

「日常的な活動や環境づくり」

の3つである。「身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫」は、単元で付けたい力を明確にし、単元構想図を作成する。これにより、単元のまとまりを見通した学びや、「見通し」「振り返り」の場面を設定し、児童が主体的に学ぶ授業を想像していく。「最適な言語活動の設定」は、「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めることができる言語活動を設定する。その際、対話の前に自分の意見を持たせたり、必要感や「身につけさせたい力」に結び付く明確な目的のある交流をさせたり、明確な目的のある「対話的な学び」の場面を設定し、考えを深めたり広げたりするための手立てを工夫したりしていく。「日常的な活動や環境づくり」は、並行読書や発達段階に応じた読書の質と量を確保していくなどの読書活動の充実や、日々の日記や「読もっか」への投稿、視写などの書く活動を継続して行っていく。また、授業や集会などにおいては、これまでも取り組んできた「国府小版伝え合うスキル」を意識した発表などに取り組んでいく。

## 2 校内研究体制

**学校教育目標**  
**自立できる子どもの育成**  
 ～かしこく やさしく たくましく～

**研究主題**  
 『自ら学ぶ力の育成』  
 ～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり～

	低学年チーム	高学年チーム
メンバー	1年・2年・3年・な2 7年（教頭・増田）	4年・5年・6年・な1 7年（校長・森口）
授業研究日	3年 : 7 / 1 2年 : 9 / 9 1年 : 1 / 20	6年 : 9 / 14 5年 : 10 / 14 4年 : 11 / 4 な1 : 12 / 4

体づくり部	心づくり部	技づくり部
テーマ【体力向上】	テーマ【学校生活】	テーマ【学力向上】
<b>【取組内容】</b> ①望ましい生活習慣づくり 早寝・早起き・朝ご飯・家庭学習 ↓ 意識化（啓発・点検） ②体育・行事の改善 ③食育の推進 ④保健教育の推進 など <u>検証：体カテスト，生活点検</u>	<b>【取組内容】</b> ①読書活動の推進 ②異年齢集団による活動 ③人権教育の充実 ④規範意識の醸成 ルール徹底・あいさつ・整頓・環境整備・清掃活動 ⑤ハート通信・ハートコーナー など <u>検証：Q-U 調査 意識実態調査（北B）</u>	<b>【取組内容】</b> ①計画的な研究推進 （研修スケジュール・PDCA サイクル化） ②学習規律の徹底 ③評価の見直し ④必達基準作成・点検 ⑤家庭学習の充実 ⑥単元テスト ⑦音読 など <u>検証：学力調査</u>

### 3 研究の構想

研究主題

## 自ら学ぶ力の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり～

#### 【授業の中でめざす子どもの姿】

- ① 主体的に課題に取り組んでいる
- ② 自分の考えを、根拠を持って表現している
- ③ 友だちの考えを自分の考えや今までの学習と関連付けて聞いている
- ④ 自分の考えを深めたり広げたりしている

#### 【研究仮設】

何を学ぶかという「目的意識・課題意識」を明確にした単元構成を工夫し、学んだことをもとにして自分の考えをまとめ表現する言語活動を授業の中に意図的に組み込んでいけば、学ぶ目的が明確になり、主体的に課題解決に取り組み、目的に応じて表現する児童が育つであろう。

#### 【研究の内容】

- (1) 身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫
  - ・単元で付けたい力を明確にしながらか単元構想図を作成する。
- (2) 最適な言語活動の設定
  - ・言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めることができる言語活動を設定する。
- (3) 日常的な活動や環境づくり
  - ・授業や集会などで各学年の「伝え合うスキル」を目指す。

#### 【研究の方法】

- (1) 授業研究
  - ・1人1回の研究授業
  - ・講師を招聘して、授業力を高める指導の在り方などの研修を行う（校内の教員が務めることもある）。
- (2) ブロックや部会の充実
  - ・ブロック及び全校で事前研（模擬授業を含む）を行い授業の視点を明確にし、それをもとに全体で深める。
  - ・学力を支える基本的な生活習慣や基礎学力の定着に向けた取組を進める。

#### 【検証方法】

- ・教師間や児童による授業評価を行い、改善に生かす。
- ・校内研アンケートを実施し、取組を検証する。
- ・各種調査で児童の実態を把握し、実践に生かす。

## 4 研究内容と取組

授業改善を進めていくために、国語科の授業スタンダード、板書スタンダード、実際の板書等を確認する。

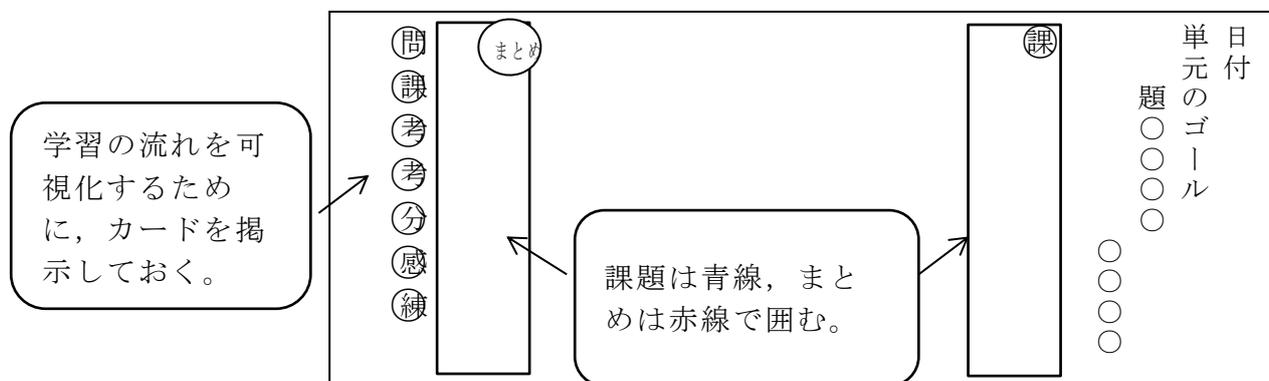
### (1) 授業スタンダード

#### 【国語科】

##### ①授業スタンダード

	学 習 活 動	指 導・支 援
つかむ	○本時の「学習課題」をつかむ ・主体的に課題に取り組む	◇ 課題の工夫, 明確化 ◇ 視点の提示 ◇ 学び方の提示
考える	○目的を持って課題を追究する *確かに読み, 自分の考えを持つ ・読む活動→考える ・書く活動→考える ・表現する	◇ 読みの視点の明確化 ◇ ワークシートの工夫 ◇ 読む力や考える力を高める発問の工夫
深める	○考えを交流し, 広げ深める *自分の考えを, 根拠を持って表現する *友達の考えを, 自分の考えやこれまでの学習と関連付けて聞く ・話す・聞く活動 ・書く活動→表現する 再思考する	◇ 交流活動の場の工夫 ・ペア, グループ, 全体 ◇ 視点の明確化 ◇ 話し方の提示 ・スキル・マニュアル ◇ 深める補助発問, しかけ ・切り返し
まとめる	○本時の学習を振り返る *学びを共有する	◇ 板書に位置付け ・何がわかったか ・どうすることでわかったか

#### 〈板書スタンダード〉



②単元構想図

<単元の構想> 単元名 和の文化について調べよう

教材名 「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」(東京書籍 五)

## 和の文化を受けつぐ～和菓子をさぐる～

☆必要な情報を見つける☆

☆資料を使って説明する☆

<和の文化の  
(リーフレット)  
を作ろう>

1. 学習の見通しを立てよう。

- ・身の回りにある「和の文化」って？
- ・グループで「和の文化」について調べ、(リーフレット)を作るという見通しをもつ。

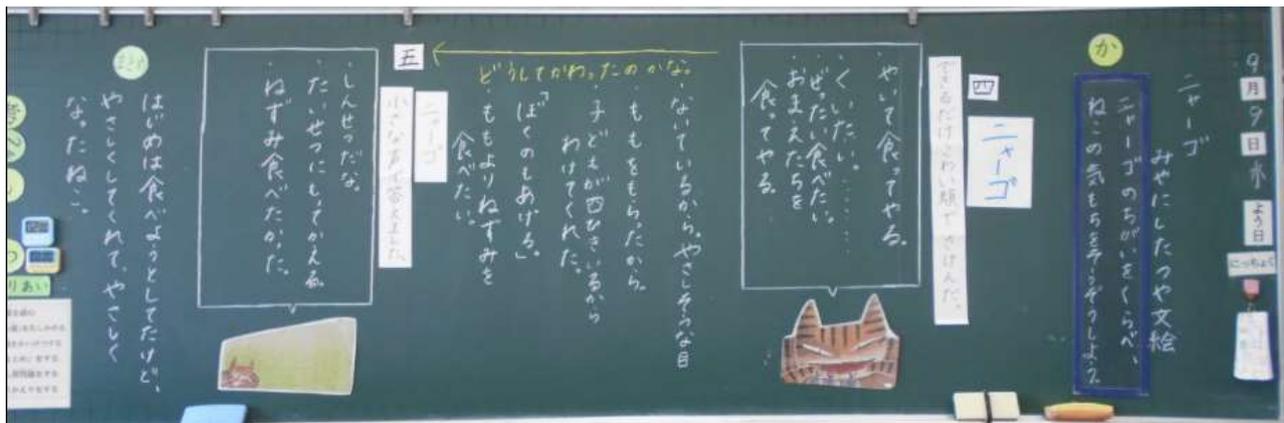
2～6. 「和の文化を受けつぐ」を読んで筆者の説明の仕方を読み取ろう。

- ・全文を読んで、筆者の「和の文化」に対する考えと文章構成を読み取る。
- ・筆者が和菓子について、どのような観点から説明しているのか読み取る。
- ・よりくわしく説明するためにどのような資料を活用しているか考える。

7～13. 「和の文化」について調べ、情報を整理し  
(リーフレット)を作ろう。

- ・計画にそってグループで分担して調べ、設定した観点に必要な情報を集める。
- ・選んだ情報と資料を使って、報告の文章を書く。
- ・完成した(リーフレット)を見合う。

③実際の板書



④「主体的・対話的で深い学び」にするための5観点の手立てによる成果と課題

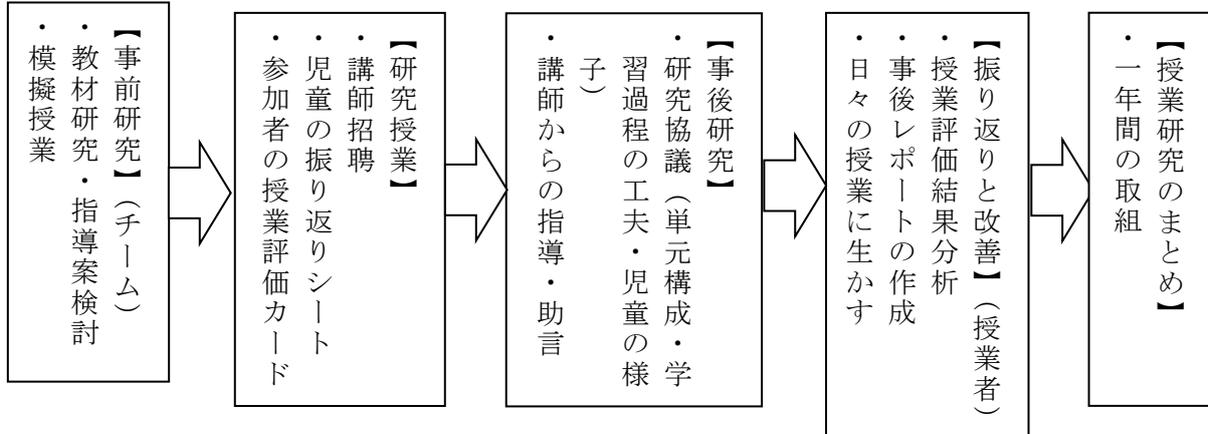
手立て	成果と課題
<p>1. 単元構想図</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができた。</li> <li>・授業開始時に活用することで、これまでの学習のあゆみを児童の言葉で確認することができた。</li> <li>・児童の書いたノートや板書を貼るなど、児童と一緒に作成したことで、児童の関心が高まった。</li> <li>・単元のゴールやキーワードを（ ）抜きにしたことで、児童の興味関心を高めることができ、自分ごととして学習を進めることができた。</li> <li>・児童が単元の見通しをもてたことはもちろん、教師にとっても安心して授業を展開していくための道しるべとなった。</li> <li>・単元で付けたい力を明記したことで、毎時間確認でき、意識して授業に臨むことができた。</li> <li>・支援学級では、児童の実態に合わせ、構想図に色画用紙で加えるなどして見やすく提示した。また、児童は、学習する場所が異なっても、交流学級の構想図と合わせて意識して取り組むことができた。</li> <li>・低学年の場合は、変更や付け足しが難しいことがある。</li> </ul>
<p>2. ペア対話</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードや付箋を活用することで、視覚的に言葉に着目して考えを深める（比較・検討）ことができた。</li> <li>・個人内対話→ペアやグループ→全体を一例に、意見交流の場を広げていくことができた。</li> <li>・ペアでの話し合いでは、いつも同じ人から話し始める傾向が見られることがあるので、話す順番にも配慮する必要がある。</li> <li>・毎日の朝の会でペア対話を取り入れ、ペアで話すことへの抵抗感をなくすようにした。</li> <li>・聞くときには、自分の考えと同じなのか違うのかを意識しながら聞き、話すときには、立場を明確にしてから話すようにした。さらに、理由や他の考え方も考えるようにした。そして、ペア</li> </ul>

	<p>対話の後は、全員挙手するようにした。意見が出なかったり、うまくまとまってなかったりしたときでも、そのことを発表するようにした。</p>
3. 言語活動の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の成果を発表する機会を作ることで、児童の学習意欲を高めることができた。</li> <li>・単元構想図にゴールを示すと同時に、新聞、ポップやリーフレット（見本の提示）を設定することにより、イメージを持って意欲的に取り組めるきっかけになった。</li> <li>・インタビューやメモの仕方を提示し、練習を行うことで、自信につながった。今後は、決まった言い方から、やりとりの中身に応じた反応や質問等ができるようにしたい。</li> <li>・子どもが主体的に取り組める言語活動を設定するために、しっかりと教材研究を行い、その学習範囲の中で楽しみながら学習を進められるように工夫した。その結果として、子どもだけでなく、教師も楽しみながら授業に臨むことができた。</li> <li>・相手意識をもってプレゼンテーションをすることを言語活動に設定するなど、実生活につながることを意識した。</li> </ul>
4. 書く活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことが苦手な児童に聞き取りを行うことにより、文章を組み立てることが苦手でも会話の中からのいい言葉を拾うことができた。</li> <li>・行事などの作文を書く機会を多く設定した。書き方や表現の仕方、書く量の力がかかなり伸びてきている。これも、読もっかに投稿するという目標（ゴール）があることで意欲的に取り組むことにつながっている。</li> <li>・低学年では書くことへの抵抗感が強い児童への配慮をし、書くことに慣れることから積み重ねていく必要がある。</li> </ul>
5. 伝え合うスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチや学習発表等に対して、他の児童が質問する際には、発表の内容やめあてに沿った発言（イエス・ノーでは答えられないような）ができるようにしたい。</li> <li>・まほろば集会では、感想の基準を設けることで意識して発表を聞くことができた。</li> <li>・各学年の伝え合うスキルを視覚化したことで意識して取り組むことができた。</li> <li>・話型の提示は、ある程度の技能向上に役立っているが、教師からの提示だけでなく、児童の発言からも取り上げ価値づけるとよい。</li> </ul>

## (2) 授業研究

自分の思いや考えを伝え合い、高め合うには、言語活動が充実した授業づくりをしていかなければならない。そこで、今年度の校内研究では、国語科の授業研究を行うこととした。

### ① 研究授業から授業改善への流れ



### ② 事後研究の工夫

事後研究では、授業内容を共有し、全体で改善策を講じるワークショップ型の協議方法を取り入れている。

1分	司会 あいさつと講師紹介 (簡単に)
3分	① 授業者より
10分	② KJ法で (付箋に書いて、グルーピング) →今回はマトリクス法。「良い点」「問題点・改善すべき点」について記入し、各グループで「問題点・改善すべき点」を中心にまとめる。
6分	③ 発表 2分×3グループ
10分	司会者「問題点・改善すべき点をふまえ、さらに、伝え合い高め合うための助言や手立てについて、意見をまとめてください。」 ④ 研究テーマに迫るための、助言・手立て (改善策) を付箋に書き (3分) グループで話し合う。(7分)
6分	⑤ 発表 2分×3 *発表は代わり合って
3分	⑥ 授業者より (明日からこれをします!などの気付き)
1分	⑦ まとめ (司会)
講師よりまとめと講話	
2分	⑧ 各グループからの感想 (明日から取り入れたいことなど)



KJ法で授業についてまとめる



まとめたことをブロック毎に発表



本校の教員による講話の様子



講師による解説・講話の様子

(3) 研究経過【令和2年度】

月	日	内 容
4	2日(木)	今年度の研究内容・計画提案協議
	3日(金)	部会, チーム会からの提案
	15日(水)	授業研年間計画決定, 指導案様式・スタンダード・講師依頼計画
5	13日(水)	学校訪問指導案検討
	20日(水)	学力調査問題の分析
	17日(水)	3年「はりねずみと金貨」指導案検討
7	1日(水)	3年研究授業「はりねずみと金貨」 ※講師 今城校長
	15日(水)	オンデマンド研修
	22日(水)	オンデマンド研修
	29日(水)	2年「ニャーゴ」指導案検討
8	19日(火)	研修報告, 学力調査の結果分析と対策
	26日(水)	6年「町の幸福論」指導案検討
9	9日(水)	2年研究授業「ニャーゴ」 ※講師 久武指導主事
	14日(月)	6年研究授業「町の幸福論」 ※講師 安田女子大学 吉田教授
	30日(水)	5年「和の文化を受けつぐ」指導案検討
10	14日(水)	5年研究授業「和の文化を受けつぐ」 ※講師 篠藤教諭
	21日(水)	4年「ごんぎつね」指導案検討
11	4日(水)	4年研究授業「ごんぎつね」 ※講師 渡邊指導主事
	18日(水)	なかよし1『「ふるさとの食」を伝えよう』学習指導案検討
12	16日(水)	研究のまとめ提案
1	8日(金)	1年「子どもをまもるどうぶつたち」指導案検討

		県版学力調査自校分析
	20日(水)	1年研究授業「子どもをまもるどうぶつたち」 ※講師 渡邊指導主事
	27日(水)	研究のまとめの検討
	17日(水)	標準学力調査結果分析・本年度の取組まとめ
3	10日(水)	漢字到達度確認，次年度に向けた提案・協議

#### (4) 成果と課題

これまで国語科，道徳科，外国語活動・外国語科を中心とした3教科を通して研究を行ってきたが，授業スタンダードに基づいた授業を行ってきたことで，一定の成果は見られた。今年度は，新学習指導要領の実施に合わせ，昨年度の3教科から国語科に絞って研究を行うようにした。もちろんこれまでの研究を活かしながら，さらに児童が主体的・対話的で深い学びができるよう授業改善を図ってきた。また，研究授業や研究協議，講話を通して，学んだことを全教職員で共有し，日々の実践に生かしていくようにした。例えば，まとめの書き方，一読文の活用，単元計画表の工夫，本文を大切に，叙述を基に根拠をもって説明するなど，研究授業ごとに個々のスキルアップとなり，授業改善につながっていった。

また，主体的・対話的で深い学びができる児童を育てるために，①単元計画表(構想図) ②ペア対話 ③言語活動の設定 ④読もっか ⑤伝え合うスキルの5つの視点による手立てを考え，学年，各チームで具体策を考えながら日々の実践の中で研究を進めていった。

研究を進めていく中で課題も見えてきた。それは，研究授業に向けての事前研において模擬授業を通して授業のねらいを確認したり改善点などを話し合ったりするが，授業の流れを確認するのに時間がかかったり，チームで作ってきた指導案に大きな改善点を伝えることが難しかったりすることがあった。

来年度は，今年度に引き続き，国語科の研究を通して，主体的・対話的で深い学びができる児童の育成を目指すために，今年度の5つの視点の強化と授業改善を図っていく。その中で，特に授業づくりに力を入れていきたい。チームで指導案を検討し事前研を行っていたが，事前研の前に全員で指導案を検討し練り上げていく時間を設定する。その際，他校の先生や講師の先生にも参加していただき，多様な意見やアドバイスをいただくことで，授業づくりのスキルアップを図っていきたい。

教師のスキルアップは児童の成長につながるということを常に意識し，実践に励んでいきたい。